

[追加資料] 2007年中越沖地震・震源海域の海底活断層の模式図

鈴木康弘（名古屋大学）・渡辺満久（東洋大学）・中田 高（広島工業大学）

震源域の海域の活構造の理解を助けるため、図1の断層構造を模式的に示した図を示す。この図は東電の設置許可申請書（公開版）に掲載された資料から容易に推定されるものであるが、原発設計時には全く考慮されていなかった。

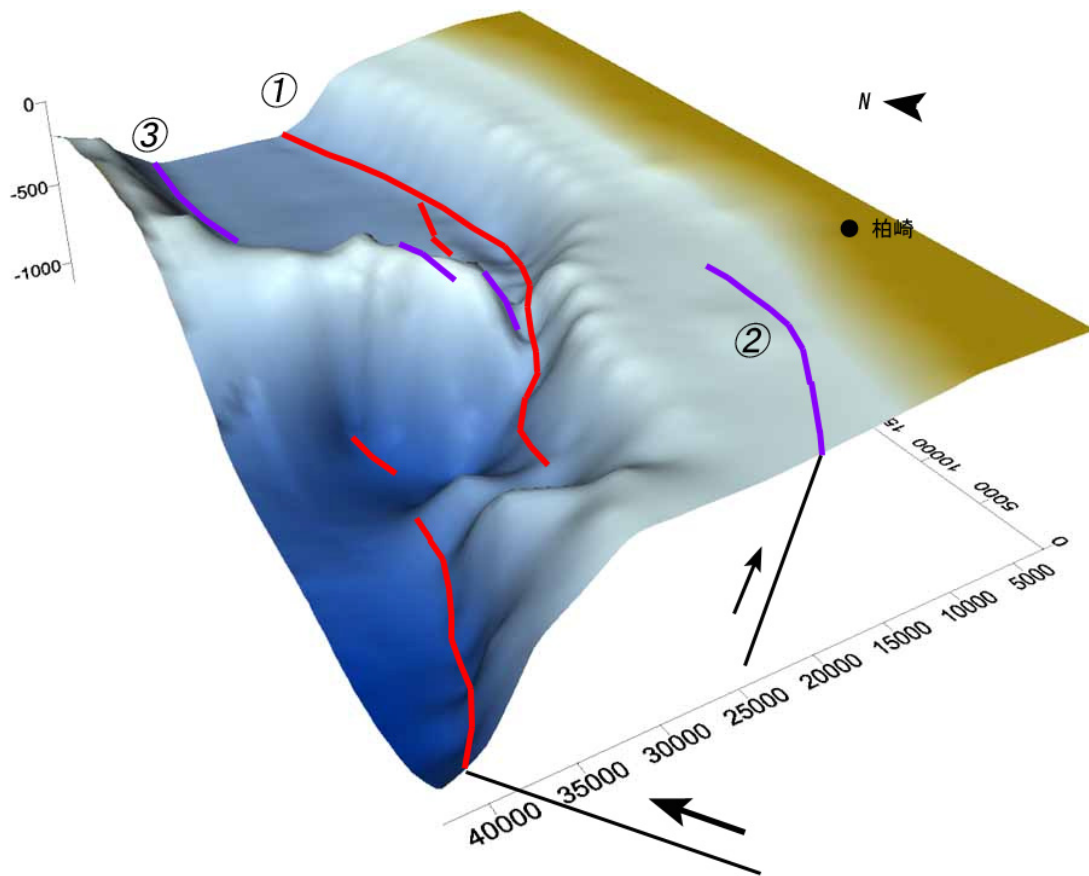


図2：東電の音波探査記録からわかる震源海域の活構造の模式図

（変形の規模から、単に表層だけでなく深部数キロまで延長する断層構造が推定できる。傾斜角度については今後の探査結果を待つ必要がある。）